

関係者各位
プレスリリース

2020年2月4日
株式会社システム計画研究所/ISP

AI による品質管理・予兆保全支援ツール

「gLupe® Monitor (ジールーペ モニター)」の提供を開始

株式会社システム計画研究所(所在地：東京都渋谷区、代表取締役：門脇 均)は、製造業の品質管理や予兆保全を AI によって支援するツール「gLupe® Monitor (ジールーペ モニター)」の提供を開始しました。



gLupe® Monitor (ジールーペ モニター)

◆ 「gLupe® Monitor」とは

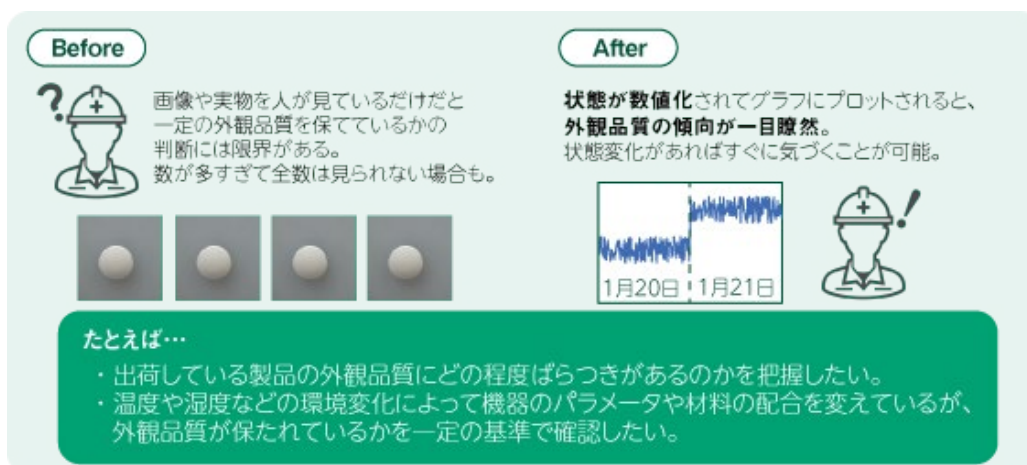
gLupe® Monitor は、当社独自の AI 技術を用いて製造業の品質管理や予兆保全を支援するためのツールです。

品質管理

予兆保全

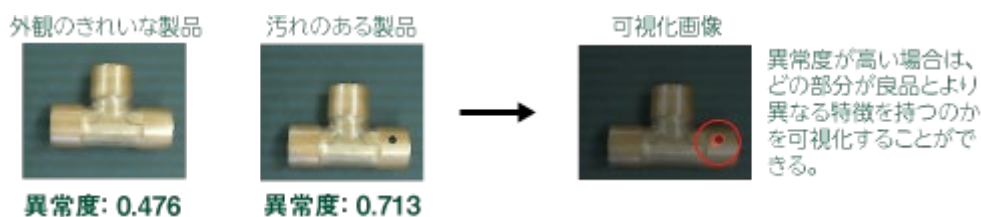
外観検査

これまで困難だった製品外観品質の数値化を当社独自 AI で実現。数値化した品質指標をモニタリングすることで、管理が難しかった製品外観品質の傾向を見える化します。



◆ 独自 AI が画像から外観品質を数値化

外観品質の数値化は、少量の良品データのみを使用して学習させた AI 学習モデルを用いて行います(算出した数値を「異常度」と呼びます)。良品のみを学習させた AI 学習モデルを用いるため、学習した良品と特徴が似ているものは異常度が低くなり、学習した良品と特徴が異なるものほど異常度が高くなる傾向があります。また、異常度が高い場合、画像のどの部分がより良品と異なる特徴を持った部分かを可視化することも可能です。



◆ 外観検査自動化への足掛かり

当社は「製造業向け外観検査ソフトウェア *gLupe*® (<https://glupe.jp>)」を用いて、これまで多くのお客様の外観検査自動化に関するお手伝いをさせていただきました。お客様と共に外観検査の自動化を進めていく中で解決しなければならない課題は様々ですが、多くのお客様が下記の課題に直面します。

- ・ 製品の外観にどの程度バリエーションがあるのかを把握できていないため、AI が良品/不良品判定するための適切なしきい値を決定することが困難
- ・ 製品の外観バリエーションを把握しようにも、実物や写真を一つずつ確認するには多大な労力が必要
- ・ 外観検査自動化システムを運用にのせるための説明材料となるデータや結果が不十分

外観検査をスムーズに自動化するためには、まずは製品の外観品質を適切に管理し、傾向を把握することが重要です。そのステップを省略してしまうと高確率で上記課題に直面することになります。しかし、外観品質の適切な管理・把握は簡単なことではありません。

gLupe® Monitor は AI の能力を体感していただきながら製品の品質を数値化し、適切な品質管理を支援するためのツールです。数値化された外観品質指標を基に管理することができるため、外観バリエーションや傾向の把握が容易になり、外観検査のスムーズな自動化への手助けにもなります。

当社は、製造業のお客様の業務効率化・自動化に貢献すべく、今後も新たな技術開発・製品開発に尽力して参ります。

◆ 関連リンク

- *gLupe® Monitor* 製品カタログ
https://glupe.jp/ja/glupe_monitor.pdf
- 製造業向け外観検査ソフトウェア *gLupe®* 製品ページ
<https://glupe.jp>

■ 会社概要

会社名 : 株式会社システム計画研究所
代表取締役 : 門脇 均
本社所在地 : 東京都渋谷区桜丘町 18-6 日本会館
事業内容 : 医療情報、制御・宇宙、通信・ネットワーク、画像処理、AI の諸分野を中心としたソフトウェア開発、システム開発、システムインテグレーション、コンサルテーション、技術開発および製品開発
URL : <https://www.isp.co.jp/>

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社システム計画研究所
担当 : 井上 忠治 (glupe@isp.co.jp)
TEL : 03-5489-0232
FAX : 03-5489-0225

※記載されている会社名、製品名および名称は各社の登録商標または商標です。